

会議録

- 会議の名称 令和7年度第2回座間市環境審議会
- 開催日時 令和7年11月10日（月） 午後1時30分～2時30分
- 会議場所 座間市役所5階 5-1会議室
- 出席者 10名
- 委員 藤井会長、小泉副会長、若林委員、中嶋委員、小野田委員、西海委員、福島委員、武田委員、浅岡委員、井上委員
- 事務局 暮らし安全部長、ゼロカーボン推進課長、温暖化対策係長、温暖化対策係委員2名、生活安全課長、環境保全係長、リユース推進課長、リユース推進係長、クリーンセンター長
- 公開の可否 ☒公開 ☐一般公開 ☐非公開
- 傍聴者 1名
- 審議事項
- (1) 環境基本計画年次報告書（令和6年度報告案）について
- (2) 工場・事業所排水分析調査の終了について

【配付資料】

- ・次第
- ・資料1：座間市環境審議会委員名簿
- ・資料2：座間市環境基本計画年次報告書（本編）（令和6年度報告案）
- ・資料3：座間市環境基本計画年次報告書（資料編）（令和6年度報告案）
- ・資料4：座間市環境基本計画年次報告書（令和6年度報告案）に対する意見書

議事の概要

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長挨拶
- 4 審議事項

(1) 環境基本計画年次報告書（令和6年度報告案）について

(2) 工場・事業所排水分析調査の終了について

- 5 閉会

～事務局から審議事項（1）について説明～

・藤井会長

今の説明について、ご質問のある方はいらっしゃいますか。

・若林委員

7ページの「令和3年度実績値は吸収量0.6千t-CO₂を除いています。」について67ページ目の表を見たところ、令和3年だけでなく令和2年度以前の数字も吸収量を除いていたと思いますので、「令和3年度実績値は」ではなく、「数値は吸収量を除いた」という表現が良いと思います。

・事務局

ご意見を反映できるよう努めてまいります。

・浅岡委員

71ページの市民への太陽光発電設備設置補助件数（累計）について、令和6年度報告が新規に47件ということですが、目標値が400件の累計の数値になっているので、新規47件が分かるようにするか、あるいは累計の数を記載したほうが見やすくわかりやすいのではないかと思います。

・事務局

ご意見を反映できるよう努めてまいります。

・小泉委員

19ページの「ひまわり祭り植栽面積」目標値18,000㎡になっていますが、

四ツ谷地区の面積よりも小さいので、55,000㎡あたりが妥当だと思いますが、なぜ目標値はこのような面積になっているのでしょうか。

・事務局

第2次環境基本計画を策定した時期にコロナが流行しており、当時の状況で設定した数値になっております。来年度、環境基本計画の中間見直しを予定しておりますので、他の項目も含め精査し改めたいと考えます。

・中嶋委員

72ページ事業者への太陽光発電設備設置補助件数（累計）ですが、他の自治体でもかなり難しい取組だと言われております。地元の事業者にどのようにしたら効果があるのか、今一度調べていただき有効な施策を打っていただきたいと思います。

・事務局

実際に事業者の方と、補助金の活用が出来るのかどうか、ヒアリングをしましたが、「脱炭素化をしなければならないのはわかるが資金など踏まえると優先順位があがってこない。」などの意見がありました。引き続き、他市の事例、事業者の意見を踏まえながら努めてまいります。

・浅岡委員

91ページの表現について、環境教育なのか公共施設であるのか、又は環境教育施設であるのか、わかりづらいと思います。

・事務局

記載方法についてはわかりやすい表現に改めます

・小泉委員

96ページの電気自動車導入台数目標値など、実態に合った目標への見直しをお願いします。

・事務局委員

公用車の適正台数などを踏まえて、中間見直しで検討いたします

・福島委員

149ページの有機フッ素の調査で、令和6年度は排水路①と排水路②の地点を調査した結果、排水路②の方が数値が高くなっています。一方、令和5年度報告書では

河川と排水路合わせて3か所を調査し、一部の排水路を含め10地点を調査しております。令和5年度と6年度はどういった違いがありますか。

・事務局

令和5年度と令和6年度で調査の内容が異なっております。令和5年度は10地点を調べ、その中で影響が高い地点を確認しております。令和6年度は10地点のうち、川に流れ込む地点と最も影響が高い地点を選んで調査しております。令和6年度の調査は、川の間地点の方が、川に流れ込む地点よりも値が高くなっています。令和5年度と6年度を比較すると、令和6年度の値が高くなっている地点もありますが、流量の関係もありますので、一概に値が高いから多く物質が存在するということではございません。

・福島委員

171ページの同じく有機フッ素について、「地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析」と記載され、136ページ(4)の題は「河川における有機フッ素化合物(PFOS、PFOA)の調査」、149ページの表の2-5は「令和6年度有機フッ素化合物(PFOS、PFOA)調査結果表」となっています。少なくとも、表2-5の題には「河川における」と記載したほうが良いと思います。

また、調査結果については、地名と数値が示されていますが、数値が高いところもあり、今後さらに高くなっていかないか心配です。調査とその結果について説明してください。

・事務局

用語の不統一については修正いたします。

また、調査の考察ですが、令和4年度から市内6か所の井戸・湧水を調査しており、特に異常な値は出ていません。ただし指針値(暫定)を超える箇所もあるような状況です。調査の方法や場所については、今後也有識者の意見を伺いながら進めてまいります。

・小泉委員

令和5年度に調査権限が市から県へ移管になったかと思われますが、令和6年度の実績は市、県どちらによるものでしょうか。

・事務局

131ページの工場事業所排ガス分析、大気中のアスベスト濃度計測の2つは、市に権限がございません。しかし、令和6年度までは市が調査をしておりますので結果

を掲載しております。

～事務局から審議事項（２）について説明～

・藤井会長

ご説明ありがとうございました。ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

質問がないようですので審議事項は以上とさせていただきます。本日の審議事項は全て終了いたしましたので進行を事務局へ戻します。ありがとうございました。